



ジオパークのネットワークを生かし地域の人と進める

「ブラとやま」と「立山黒部ジオパーク見聞録」

(立山黒部ジオパーク)

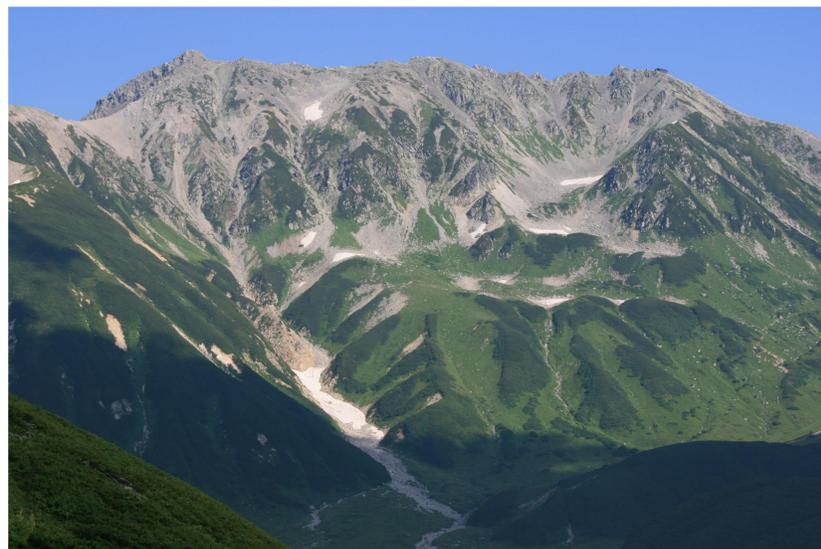
立山黒部ジオパークについて

立山黒部ジオパークは、富山県東部の9市町村(富山市、魚津市、滑川市、黒部市、舟橋村、立山町、上市町、入善町、朝日町)と富山湾の一部から成る日本ジオパークである。

このエリアの最大の特徴は、標高3,000m級の立山連峰から水深1,000mの富山湾まで、約50kmの水平距離の間に4,000mの高低差がある大変急峻な地形をしていることである。

これら山・川・海の大地とそれにかかわる大自然の営みによって独特な自然や文化が形成されており、ジオサイト、自然サイト、文化サイトなど多様な見どころを有している。

図. 立山黒部GPのエリア



立山と山崎カール

「まちスポとやま」「富山大学」とともに進める まちなかジオツアー「ブラとやま」

「ブラとやま」の成り立ちと目的

- ・参加者が身近な自然に興味・関心をもち、不思議を発見できるようにガイドする
- ・参加者が探究心を持って主体的に行動するまち歩きを目指す

立山黒部ジオパークの地域の一つ富山市は、公共交通を軸としたコンパクトシティの先進都市で、健康づくりと融合した”歩きたくなるまちづくり”を推進している。この「とやまし元気づくりプロジェクト」に取り組むのが、認定NPO法人まちづくりスポットが運営する「まちスポとやま」である

まちスポとやま

市民が地域の地形や地質、文化・歴史を主体的・対話的に学ぶ場をつくらう！

仲間を増やし住民自らが **ウェルビーイング** (健康で幸福な状態) に！

立山黒部ジオパーク

それぞれのもつ課題と情報の共有化

市街地におけるジオサイトエリアの認知度アップ！

富山大学
都市デザイン学部

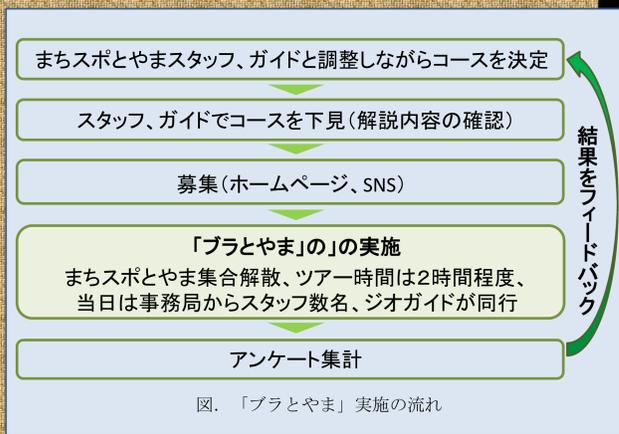


図. 「ブラとやま」実施の流れ



<スタッフによるコースの下見>

ブラとやま 実施状況

- <2019年度>
- ・対面ツアー 5回
- <2020年度>
- ・対面ツアー 5回
- ・オンラインツアー 5回

「ブラとやま」の様子

参加者の主体的なまち歩きとなるよう、ジオガイドは以下の点に留意するした

1 参加者の思い出を大切に

参加者が自分の思い出やエピソードを話すことで、参加者同士の対話につながるようにする

<学生が地形を説明>

<ガイドと解説看板を読む>

なぜ、ここに祠が？

場所によって釣れる魚が違う。岩瀬運河のあたりでは・・・

2 参加者がマイクをもって話す

参加者自身の声で伝えることで、ガイドの話を聞いて歩くだけのツアーにならないようにする。運営スタッフがマイクを持ち歩くことで、タイムリーに参加者が情報や思い出を語れるようにする

<昔の富山大橋の思い出を話す>

昔の神通川の橋はここにはなくて、新しい橋となって移動しました。

5 見学内容につながりをもたせる

5回のツアーは違う場所を歩いているようでも、隠れテーマでつながっている。各回を通して、地形・地質、インフラ、まちづくり、歴史、文化などに考えて関連性のあるツアーを配置する

平成16年の洪水跡の印と洪水の警戒水位線。神通大橋の直下まで増水したこと確認。

3 参加者同士の対話を促進させる

ジオガイドを含めた運営スタッフが参加者の間に入り状況を見て話を振ったり会話に参加したりするファシリテーターの役割をもつ

4 ガイドは多くを説明しない

参加者が主体的に「問い」を見つけたり対話しながら歩いたりできるように、ガイドは多く説明しないようにする。運営スタッフの事前の下見により、街歩きの趣旨や内容を確認するようにする

隠しテーマ”洪水”に迫る

富山に鱒ずしのお店はたくさんあり、昔の神通川沿いに位置しています。

<旧河川の解説>

<参加者の声>

- ・車では通り過ぎてしまうところに新しい発見があった！ウォーキングでストレス発散した。
- ・普段かかわりのない大学生との交流で元気をもらった。参加者同士の話が多くて良かった。
- ・地元の方に詳しく話が聞けて良かった。自分たちだけで再度訪れたい。
- ・普段話さない人と話す、知識を得る、健康を目指す。それぞれ楽しみ方が違うが、参加して交流し合うのがよい。

GENKI PROJECT

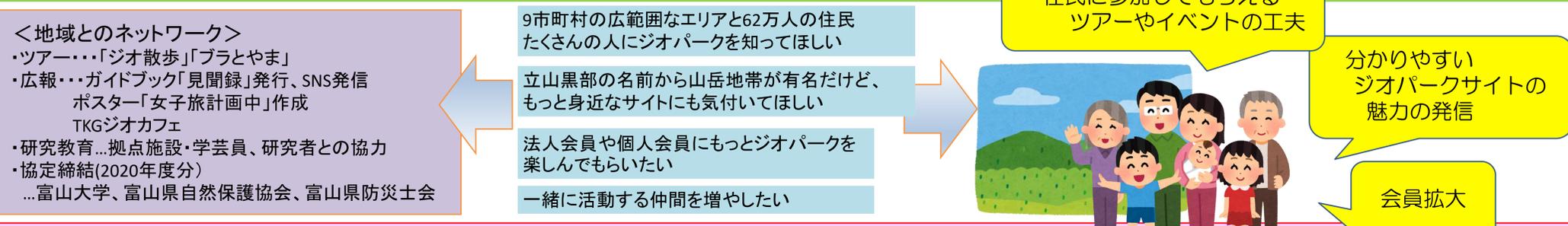
これからの「ブラとやま」

- ・自分たちでまち歩きを楽しめるように、参加者の「あれ？」「なぜ？」を大切にストーリーをもって歩けるようにしたい。
- ・参加者が自主的にまち歩きを計画しまち歩きを楽しみ、この先もずっと続けてほしい。



立山黒部ジオパークは民間の団体が運営しており、地域の会員で構成・運営されている。一般会員が中心となり、企業、博物館、大学、関係機関とのネットワークを広め活動を進めている。今回は、富山市から健康づくりプロジェクトを受けた「まちスポとやま」「富山大学」とともに進めるまちなかジオツアー「ブラとやま」と、会員やジオガイド、地域住民がジオパークのエリアを訪れその魅力をまとめたガイドブック「歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録」について紹介する。

立山黒部ジオパークでの地域連携と課題



会員がジオパークの魅力を紹介「歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録」

ジオパークの魅力を具体的に分かりやすく説明し、ジオパークサイトの魅力を一般に紹介する読み物として「歩いて手繰る立山黒部ジオパーク見聞録」を2年半かけて作成した。

ガイドブック作成の留意点と工夫

1 難しすぎずだれもが手に取れる親しみやすい読み物にする

会員やガイド、一般の方から原稿執筆ボランティアを公募し、その土地で実際に歩いて感じたことや見どころなどを書いてもらう。ジオパークに関わる研究者、学芸員、保護団体、25名が執筆者として参加

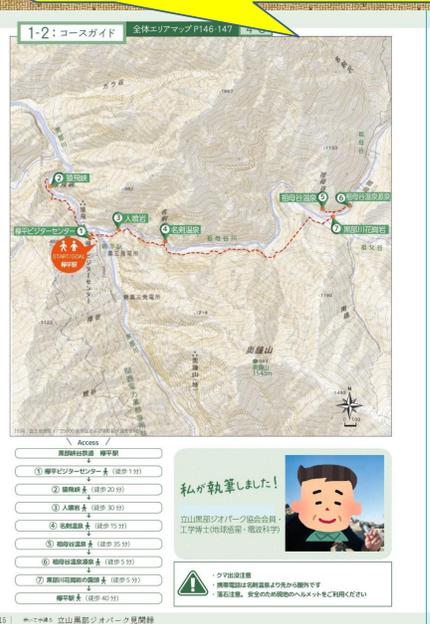
3 見聞録を手にとった誰もが訪れることができるように、マップやルートを明記する

徒歩や車、公共交通機関ででかけることができるよう、地図と共に距離や所要時間を明記

2 立山黒部ジオパークの地形の特徴を表す美しい写真を多く取り入れる

それぞれの地形や地質ならではの育まれた自然や文化、歴史を記載するとともに紹介文を補足する美しい写真を数多く使用する

<執筆者>
読んでくれた人がワクワクしながら、ジオパークに出かけてくれるといいな



見聞録は2000部を印刷・販売。この本の作成には協会会員企業(株)アーキジオ、とうざわ印刷工業(株)の大きな支援を得ている。また東京地学協会助成金交付も受けた。増刷を検討中

まとめ

- ・この2つの事業を通して、ジオパークを身近に感じてもらえたり、自分もまち歩きやサイトに出かけてみようと思ったりする機会が増えたのではないかと思います。
- ・ジオパークの活動を9市町村にもっと広め、より親しんでもらうためにも、それぞれの自治体での活動に参画したり、自治体に出かけて行ってジオパークを知ってもらう機会を増やしていきたい。
- ・ヒトと関わることの楽しさはネットワークづくりから始まって個人会員や法人会員、一般個人に「何か一緒にやりませんか」と声をかけることで、活動を広げ会員を増やしていくようにできると考えている。

